

## 自分の実力が、どこまで通用するか 試したい。だから、プロの相撲の世界へ。

武双山関、片山関に続き本学出身の3人目の関取として、活躍が期待される大道関。大きな怪我を乗り越え十両、そして幕内入りの夢をかなえ、さらなる夢実現へと精進している。新入幕の七月場所は、残念ながら6勝9敗と負け越したが、これをバネに新たな飛躍への決意を、うかがった。

### 相撲人生では、 大きな転機に直面。

七月場所では、幕内の取り組みに備えて稽古は十分しましたが、反省点としては攻めが遅かったように思います。立ち会で相手と当たってから連続攻撃ではなく一瞬、止まってしまうことがありました。ある取り組みで右四つになり、「右四つになれた！自分の狙ったカタチになれた！」と思った瞬間、相手は不利な体勢から、すぐ投げを打ってきました。一瞬のスキ、一瞬の遅れを、幕内で経験を積んだ力士は見逃しません。幕内は甘くないと感じました。

いままでの相撲人生を振り返ってみると、大きな転機がありました。幕下五枚

#### 「大道」という、 四股名入りの着物。

「幕内に入幕すると、四股名を入れた着物をつくることができます。普段の外出に着るのではなく、15日間の場所中、宿舎などから会場へ通うときに着ます。幕内の力士ならではのステータスです」

目、この場所で決めると十両に昇進できるというときです。体調も、すこぶる快調。「これは、上がれるぞ」と、自分でも思いました。そんなとき、稽古で相手の頭が私の顎に当たりました。最初は「ちょっと頭が痛いな!？」という程度でしたが、あとになってからめちやくちや痛くなり、嘔めないほどの痛みが襲ってきました。実は顎が、ぱっくり折れていて、病院に行ったら先生から「すぐ手術!」。その場所は全休、もちろん次の場所の番付は大きく下がりました。160キロあった体重も、退院時には145キロに……。

気持ちが切れそうになり、父に電話して声を聞いているうちに、期待している父を、「がっかりさせたくない。諦めたら駄目だ。気持ちが切れたら駄目だ」と、踏みとどまりました。ここが一番の試練でしたね。

### 目指すは三役、 校友の期待に応えたい。

小学生の頃から相撲は好きで、道場で稽古をしたりしていましたが、「相撲取りになりたい!」というほどではなかったですね。最初は誘われたので相撲を取るようになりましたが、「廻し」を締めるのは恥ずかしかったですし、抵抗感がありました。周囲から「似合うぞ」と、おだてられて始める

## 大道健二

幕内力士  
おうのまつ  
阿武松部屋

たいどう けんじ  
(本名/中西健二:なかにしけんじ) ●2005(平成17)年、経営学部経営学科卒業。1982年生まれ。東京都出身。阿武松部屋(親方は元関脇の益荒雄関)。好きなものはサッカー、アクションもののDVD鑑賞。座右の銘は「努力」。



ようになりました。

プロの相撲取りになろうと思ったのは、大学4年のときです。小学校から中学、高校、大学と、ずっと相撲を続けてきたので、自分の実力を試してみようと考えました。実業団という選択肢もありましたが、自分としては、どうせやるならプロの相撲界でやってみたい、実力を試してみたいという気持ちが強かったですね。

現在、阿武松部屋に所属しています。私自身、大人しい性格なので、稽古のときも親方から「もっと荒々しくなれ!」「考えて相撲を取れ!」と、厳しく指導されています。また、阿武松部屋には、専修大学出身者も多く、入門して本当に良かったと思っています。

今後の目標としては、まずは三役を目指しています。専修大学出身者って全国どこにでもいて、各地でいろいろな方から声をかけていただき、母校は凄くなって思います。応援・声援されると大歓声の土俵上でも、不思議と聞こえてくるので力が湧きますし、そうした方々の期待に応えたいと思います。(談)

九月場所の番付は東前頭十五枚目。

